

アートサポーター便り

編集：清須市はるひ美術館アートサポーター 広報チーム

特集

高北幸矢館長インタビュー！

美術館の顔として様々な活動を行う高北館長に、清須市はるひ美術館の魅力についてお聞きしました。

- 清須市と同じ規模で公立の美術館を有する市は少ないのではないのでしょうか。この地に美術館があることを誇りとし、アートを楽しむ豊かな文化資産として次世代につなげていきたいと思っています。
- 教育普及活動の一環として「館長アートトーク」を毎月開催しています。地道な活動の甲斐あって、参加者がだんだん増えてきていることはとても嬉しいことです。
- 作家には発表の場が必要です。例えば当館では「清須ゆかりの作家」をシリーズとして取り上げていますが、地域の作家に発表の場を提供するとともに、地域のすぐれた文化を発信する役割があります。



囲碁で人間が人工知能に負けたニュースを知り、美術界も人工知能に脅かされる時代が来るのか？と質問しました。彫刻家・舟越桂の言葉を借りて、「芸術は進化しない、広がるだけ」と即座に返されました。芸術に勝ち負けはなく、作品は、作家の「想い」の産物である意かと納得。(K・H)

開催中

清須ゆかりの作家 中川幸作写真展 命が煌めく瞬間



～広報チームメンバー、鑑賞後の感想から～

- ・多数の作品の中で、「きんさん、ぎんさん」の笑顔に接し「ホッ！」としました。(S・S)
- ・指揮者の写真を見て、頭の中に音楽が鳴り響きました。音楽会で聴いている感覚でした。(T・N)
- ・カラーはもとより、モノクロームの階調の豊かさ、人物の表情、背景の切り取り方に感動しました。(T・K)
- ・厳しさの中にも、至福の瞬間をとらえた作品たちに出会えました。(T・H)

ココ見て！

《植田努（彫刻家）》2015年

作家の傍らに飼い主を出迎えるハチ公の像が写っています。ライトアップで揺らいでいるハチの影がとっても嬉しそうとネットの声。一度実物の彫刻を見てみたいものです。

ハチの像は渋谷駅の他、久居駅前と大館駅前にもあるそうです。飼い主は上野英三郎（農業土木の創始者で三重県津市（旧久居市）の出身です。

【館長インタビューを終えて…】

- ◎イヤァ、全く面白い！！
清須に美術館があって良かった。(M・I)
- ◎サポーターとして美術館を盛り上げるお手伝いできれば良いなと思います。(K・N)
- ◎館長の若き日のエピソードも聞け、楽しいインタビューでした。(T・T)

【編集後記】

広報チームに新しく参加者があり、中川幸作写真展の感想を寄せてもらいました。

今後も「アートサポーター便り」で美術館の情報を発信し、多くの方に関心を持っていただけるよう頑張ります。